

人の移動と国際観光

大阪観光大学名誉教授

鈴木勝

国際観光客数は順調な伸びだが、これは観光振興の努力の賜物である。中でも努力が窺えるのは「人の移動の障壁」への対策で、中心的には「査証や関連規制」など制度的なものの除去だ。今回の議論はこの分野であり、世界的な実態と共に、北東アジア観光圏を深掘りする。

国際観光の活発化の要因は①経済発展・安定、②外国旅行の制限緩和・自由化、③ツーリズム・インフラの整備、④デスティネーション開発、⑤プロモーション活動の開発である。即効的なのは②「外国旅行の制限緩和・自由化」である。「ノービザ」が理想的だが、国家の治安や安全を守ることが重要で安易に導入すべきでない。ノービザの種類は「通常無査証」、「一定地域無査証」、「特定マーケット無査証」、「片側国・無査証」、「無査証トランジット」など。査証取得の種類は「マルチビザ」、「電子（E）ビザ」、「ロングステイビザ」、「現地取得ビザ」など。査証以外に「CIQ 簡素化」や「旅行をし易くする制度的な障壁（空港税など）の除去／低廉化」がある。「世界旅行・観光競争力ランキング」では「人の移動の障壁」への対策の指標（INDEX）で、観光競争力を評価。「国際的なオープン性」のビザ免除度では韓国を除き後順位。航空協定開放度では、日本や韓国は進むが、ロシア、中国、モンゴルは遅れぎみ。「観光政策への政府の優先性」や「起業（外資）の所要時間」では遅れる。

さて、ビザで活発な動きは「韓国」。ノービザをロシア人に導入し、中国人には「済州島無査証」。中国政府は日本人にノービザ制を導入。最近、北京空港では6日以内「ビザなしトランジット」を認可。ロシア政府は韓国人に無査証を採用、中国人には団体旅行のみに無査証。日本政府はロシア人渡航にマルチビザ期間を延長。北東アジア観光圏は国々の特性に応じて「人の移動の障壁」の除去に努力。時に「Eビザ」、「数次ビザ」、「現地取得査証」を推進すれば、「国境ツアー」などで活性化が進むだろう。

最後に、直面する懸念を述べたい。1つは、中国政府の韓国への渡航制限（THAAD 配備）による北東アジア全体の伸びの鈍化。人の自由な移動に対する政治的な介入は避けるべきである。他は、各国で空港税など各種税金が高騰しているが、2019年1月施行の日本での「国際観光税」の影響はどうか。結論として、無査証に固執せず、種々、柔軟な工夫をもっと講ずべきである。

（注：本論の「北東アジア観光圏」は、日本、中国、韓国、北朝鮮、モンゴル、ロシア。従い、国連世界観光機関による統計地域と異なる）